

Key  
Person



萩尾工業(株) 代表取締役

# 萩尾 勝美

「父が懸命に築いてきた社を、後継者がおらず豊むのは忍びない」。  
そんな思いから萩尾社長は勤めていたゼネコンを退職し、家業である『萩尾工業』に入った。  
そして家業に就いてからは、培った経験やノウハウを活かして事業の継続・発展に尽力し、  
父やスタッフと共に励む中で社の信頼と実績を蓄積する他、認知度の向上も実現した社長。  
「皆と一丸となって励んできた努力が報われたと嬉しく感じています」と笑顔で話していた。  
また現在、中学2年生ながらも社長のご息女が同社を後継する意志を示しているといい、  
ご息女が堅調に事業を進めていくための、人材育成や基盤づくりに社長は奔走している。  
きっと今も昔も、社長の原動力になっているのは、自身の大切な人たちの存在なのだろう。

「大切な人のことを思って励むのに、  
何か特別な理由なんて必要ありません」

# 卓見とチャレンジ精神、培ってきた知見を活かし 建設事業と環境事業の両輪で歩みを進める経営者

建築工事業や土木工事業などを事業の柱としている『萩尾工業』。萩尾社長は、ゼネコンで幅広い経験とノウハウを積んだ後に家業である同社に入り、事業の発展に貢献してきた。また、2015年には光合成細菌を核とした環境事業を行う『アッタワット』を設立。本日は、そんな気鋭の経営者である社長に、俳優の佐藤蛾次郎氏がお話を伺った。



## ゼネコンで修業を積んだ後 家業のことを思って入社する

—はじめに、『萩尾工業』さんの事業内容と沿革からお聞かせ下さい。

建築工事業や土木工事業、プレハブの販売・施工・リースなどを行う当社の起りは、父が仮設トイレの販売を始めたことに端を発します。その後、父は現在事業の柱を担っている建築業に業容をシフトさせていき、当初はプレハブ専門の

建築業を手掛けておりました。それからゼネコンで修業を積んだ私が入社して、プレハブ以外の建築工事や土木工事も行える体制を整えていったのです。

—ゼネコンでの修業は後継を見据えてのことだったのでしょうか。

いいえ。実は、後を継ぐことは考えていなかったのですよ。と言うのも、私が小さいころ父の帰宅はいつも遅く、朝、私が学校に行く時はまだ寝ておりました、週に一度父の顔を見られるかどうか

という感じでした。そのため、経営者に比べて規則正しい生活がしやすいであろうサラリーマンに憧れていたのか、小中学校の卒業文集には「夢はサラリーマン」と（笑）。ただ、私が学業修了後にゼネコンで働いている間も父は懸命に社を守り立てており、父が築いた社を後継者がおらずに畳むのは忍びない気持ちが徐々に芽生えてきて、後継を真剣に考えるようになったのです。そして一念発起して退職し、家業に入りました。

『萩尾工業』代表取締役  
『アッタワット』顧問

## 萩尾 勝美

学業修了後、ゼネコンに就職してキャリアをスタート。8年ほど経験を積む中で、家業である『萩尾工業』のことを思い、一念発起して家業に入る。前職で培ったノウハウを活かして事業の発展に貢献する中、代替わりを果たし、2015年には新たな業容に着手。環境事業を手掛ける『アッタワット』を立ち上げた。現在両社の事業を堅調に推進している。



## 萩尾工業 株式会社

広島県東広島市八本松東2丁目18番21号  
URL : <http://www.hagiokogyo.co.jp>

## 株式会社 アッタワット

広島県東広島市八本松東2丁目18番22号



萩尾社長のお父様である利勝氏とお母様の久子さんを交え、ゲストの佐藤蛾次郎氏と記念の一枚

## PSBリキッド・PSBビーズの力で明るい未来を切り拓く一助に

重金属や放射性セシウム（Cs）他などを吸着し、土壌活性化に寄与して農作物の品質向上にも効果的など、種々の能力を持つ光合成細菌。他にも、環境浄化資材としても利用できるという。

環境浄化資材には、光合成細菌を集約させた菌体を液状化したリキッドタイプ（PSBリキッド）と、固形化したビーズタイプ（PSBビーズ）があり、用途によって使い分けて使用する。たとえば、容器に汚染水を入れてPSBリキッドを入れることで、より早く吸着することができる。また、汚染水にPSBビーズを入れると、一つひとつが汚染物質を自然と吸着してくれるのだ。そして、あらかじめ回収して汚染水を浄化した吸着後リキッドとビーズは、焼却して減容化する

ことも可能となっている。驚くべきはその有用性の高さだ。水中の放射性Csなら454倍まで濃縮可能であり、具体的な数値にすると、1トンの汚染水中のCsを198gの焼却灰として回収することができ、かつ2次汚染の心配もない安全な製品であるという。

そんな光合成細菌を扱った環境事業を行う『アッタワット』では、福島県南相馬市の土壌除染の他、同県内の自動車ラジエーターや自動販売機のコンプレッサーの洗浄水などの除染を成功させ、汚染を基準値内に低減させたという実績を持っている。光合成細菌の力で以て明るい未来を切り拓く一助となっている、バイオテック企業が今後どのような活躍を見せるのか、同社の今後から目が離せない。

## 光合成細菌に可能性を見出し バイオテック企業を立ち上げる

—お父様のことを思って大きな決断をされた萩尾社長からは、義理堅く、情に厚い人柄が窺えました。家業に入られて、何か心境の変化などはありましたか。

知名度という点で前勤務先とは大きな違いを感じました。前勤務先は全国区で名が通っていましたが、当社はそうではありませんからね。とは言え、父やスタッフと共に励み、堅実に事業を継続・発展させる中で代替わりしてからは公共工事にも入札・着手するようになりまして、最近では徐々に認知度が上がってきているのです。皆で一丸となって励んできた努力が報われたと嬉しく感じています。また、当社の事業を進める中で私は新しい業容を手掛けようと、『アッタワット』を設立。こちらでは光合成細菌を核とした環境事業を行っています。

—光合成細菌ですか。では、『アッタワット』さんの設立に至った経緯や、光合成細菌の特徴などをお聞かせ下さい。

ある時、大学の先生とご縁を頂戴しまして、光合成細菌を知りました。この光合成細菌は重金属などを吸着する能力を

持っており、関心を抱いた私は大学と共同研究することにしたのです。そうして、放射性セシウムなどを吸着できる光合成細菌の培養に成功し、現在それは福島県で実用されつつあります。

—重金属や放射性物質を吸着・吸収するのは光合成細菌の力に驚きました！

他にも、農地に光合成細菌を蒔くと土壌が活性化しまして、もちろんそんな農地で育った農作物は質が良くなります。たとえば、以前メロン栽培で実験を行い、光合成細菌が蒔かれた農地と普通の農地で育ったメロンの違いを検証したのですが、光合成細菌の農地で育ったメロンの糖度が20%も高かったのですよ。この光合成細菌は革新的な細菌ですし、これをもっと農業に活用したいと、現在模索しているところです。

—まだまだ判明していないだけで光合成細菌の力は無限大かもしれませんね。ちなみに、『アッタワット』という社名は特徴的ですが何か由来などあって？

「人が集まる」「お金が集まる」という意味を持つ言葉で、家族でタイのプーケットに旅行へ行った際、現地ガイドをしてくれた方の本職が僧侶だったんですよ。その方は、旅行中に色々となつて

話を私にしてくれた他、運が向上する仏像もプレゼントしてくれるなど、とても良くして下さいました。ですから、その方への恩義や人のご縁を大事にした気持ちも社名に込めていますね。

—では最後に、今後の展望を伺います。

優秀な番頭となるような人材の発掘・育成に力を入れていきたいと考えています。と言いますのも、中学2年生の娘がいるのですが、昨年あたりから『萩尾工業』を継ぎたいと言ってくれるようになりました。その言葉に私は嬉しさを感じる一方で、会社の経営はとても難しく、苦勞することも少なくないので、親心としての葛藤も芽生えましてね。そこで、しっかりとサポートしてくれる頼もしいブレンがいれば堅調に事業を進めていけるのではと考えているのです。そして、「企業は人なり」というようにスタッフがいてこそその会社なので、仲間やその家族の生活をしっかりと守っていくためにも、この先も堅実に歩めるよう努力を重ねていきます。光合成細菌の事業を軌道に乗せて安定化させることも重要です。気を引き締めながらこれからも前進し続けていきます！

（取材／2018年1月）

## After the Interview

### 佐藤 蛾次郎

「光合成細菌とは初めて聞きましたが、目に見えないような小さな生物が持つ能力にとっても驚きましたね。また、そうした微生物の力に着目されて、環境事業を起こされた萩尾社長のチャレンジ精神や行動力の高さにも、感心致しました。今後も事業を通じて、人々の豊かで快適な日常を支え続けていって下さいね」

